実践事例　　学校名（廿日市市立津田小学校）

テーマ（生命を尊重する心を育てる道徳教育）

1　学　年　　第５学年

2　主題名　　「かけがえのない命」（(D（１９）生命の尊さ）

3　ねらい　　亡くなったおばあちゃんに恩を返すとはどういうことかを考えることを通して，かけがえのない命を大切にし，自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

4　教材名　　「おばあちゃんからもらった命」（出典：「きみがいちばんひかるとき」光村図書）

5　本時の主題について

本主題は，学習指導要領第５・６学年の指導内容Ｄ－（19）「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。」を主な内容としている。生命の大切さに関するものであり，生命あるすべてをかけがえのないものとして尊重し，大切にする児童を育てることを目指している。

生命を大切にするということは，かけがえのない生命をいとおしみ，自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。生命のもつ侵し難い尊さが認識されることにより，生命はかけがえのない大切なものであって，決して軽々しく扱われてはならないとする態度が育まれるのである。ここでは，児童に生命の尊さを概念的な言葉で理解させるとともに，自己との関わりの中で，生きることのすばらしさや生命の尊さを考え，自覚を深めさせていく。

この時期の児童は，個々の生命が互いを尊重し，つながりの中にあるすばらしさを考え，生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに，生死や生き方に関わる生命の尊厳など，生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。また，様々な人々の精神的なつながりや支え合いの中で一人一人の生命が育まれ存在すること，生命が宿る神秘，祖先から祖父母，父母，そして自分，さらに，自分から子ども，孫へと受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようになる。本教材での学習を通し，限りある生命を懸命に生きることの尊さ，生きることの意義を追い求めることの高尚さなど生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育んでいきたい。

6　本時の主題に係る児童の実態について

本学級の児童は，４月に実施した「道徳にかかわる質問調査」によると，「自分やほかの人などの命を大切にしている」という質問項目に１６名が「そう思う」２名が「どちらかといえばそう思う」と答えており，生命の大切さに気付いている児童は多い。１学期の理科では，メダカのたんじょうやヒトのたんじょうについて学習し，ヒトの受精卵はメダカの受精卵よりもずいぶん小さいのに，何か月もかけて母体内で大きく成長していくことを理解した。学習後のふりかえりでは，ヒトの生命の神秘性を感じ，自分の命の重みに対する気付きをもつ児童が多くいた。しかし，実際に自分がどのように生きることが「命を大切にする」ということであるかについては，実感を伴った理解はできていないと思われる。

7　教材について

本教材は，主人公が阪神・淡路大震災で祖母と一緒に被災して，がれきの下で祖母の頭をかばった右手をずらしたことで，祖母が亡くなってしまうという経験をした話である。震災直後には，生きる気力をなくしていた主人公が，「おばあちゃんへの恩返しのつもりで介護福祉士になり，お年寄りのお世話をしたい」と考えるようになる。身近な肉親を亡くし生きることに後ろ向きになってしまった主人公の，明日に向かって進んでいこうと前向きに考えることができるようになった心情の変容と，「命

を大切にする」ということについて児童の考えを深めさせられる教材といえる。

指導に当たっては，ねらいとする道徳的価値について問題意識を持たせるために，どうしたら「命を大切にする」ということになるのかという問いを導入部分で提示する。展開においては，震災で一緒に被災した祖母を亡くし，生きる気力を失ってしまった主人公の心情に共感させるとともに，後に目標に向かってがんばり，おばあちゃんからもらった命を一生懸命生きようとする前向きな姿勢と比較させ，ねらいとする道徳的価値に気付かせたい。終末においては，自分の生活の中で，一生懸命がんばっていることについて考えさせ，そのがんばって輝いている姿が大切であることを実感させ，ねらいとする道徳的価値に迫っていきたい。

８　指導過程の工夫

①　テーマに係っての工夫

まず，児童が学習前に捉えている「命を大切にする」生き方について問うことで，主人公の「生」に対する捉え方と比較して考えさせる。

本時でねらう「命を大切にする」ことを考える時，「生きる」の正反対である「死」と隣り合わせになった恐怖と，大好きな祖母を失った悲しみからどのように気持ちを変容させていくかを，場面ごとに心情曲線を描き視覚的に捉えやすくする。

主人公の気持ちは，少しずつ変容するが，揺れている時に前向きになっていくきっかけとなる，父親の言葉を通して，①天国の祖母の思い②恩返しの意味を多角的に考え「生きる」事に迫る。

②　発問の工夫

導入段階で，「命を大切にする」に対して反対の生き方は何かを問うことで，「死」の意味することを捉えさせる。

父親の言葉にある「祖母の願い」を深めることを通して，自分の命に対する周囲の思いに気付かせ，今ある命を粗末にすることの愚かさを感じ取らせる。

「恩返し」の「恩」とは何かを考えることで，これまでの祖母への感謝の気持ちを思い起こさせることを通して，与えられた「恩」をいかに「返し」ていけばよいか自分のこととして捉えさせる。

「恩返し」と主人公の決心がどのように結び付くのかを考え，導入で問いかけた「命を大切にする」生き方とはどう生きることかを再び問い，道徳的価値の変容をはかる。

③　導入・展開・終末の工夫

学習前の児童の「命を大切にする」生き方の意識を全体で確認する。

本時は，何を考える時間かを明確に提示し，学習問題に対する児童の意識を高める。

展開では，「恩返し」の「恩」を全体で考え，それらに対しどのようなことをして生きることが「返す」ことになるかを各自で考え，ワークシートに書く。

個々に考えた「恩返し」と主人公の決心が，どのようにつながるのかを全体で確認する。

この学習で学んだことを「道徳言葉」の形で考え，まとめる。

終末では，これまでの自分たちの生き方を写真を見て見つめ直し，道徳的価値を深める。

９　教材分析表

場面	めぐみさんの気持ち	関連する価値	考えられる発問	発問の意図
1　阪神・淡路大震災で，おばあさんといっしょに被災し，おばあさんが亡くなってしまう場面	・おばあちゃん，ごめんね。 ・もう生きていけない。	D（１９） 生命尊重	・震災直後のめぐみさんは，だれにも言えないどんな気持ちをノートに書いたのでしょうか。	・めぐみさんの辛くて生きることに後ろ向きになっている気持ちに共感させる。
2　お父さんに，「めぐの無事がおばあちゃんの何よりの望みだったはず」だとさとされる場面	・おばあちゃんからもらった命を大切にしたい。 ・がんばってリハビリをしよう。	D（１９） 生命尊重	・お父さんの言葉を聞いて，めぐみさんの気持ちはどう変わりましたか。	・めぐみさんの気持ちの変容を捉えさせる。
3　おばあちゃんへの恩返しのつもりで，介護福祉士になりたいと決意をする場面。	・おばあちゃんは死んでしまったけど，代わりにお年寄りのお世話をしたいと思ったから。 ・おばあちゃんにもらった命を大切にしたいから。 ・目標に向かって進んでいきたいから。	D（１９） 生命尊重	・なぜ，介護福祉士になろうと決意したのでしょうか。	・震災直後には，生きることに後ろ向きだっためぐみさんが，おばあちゃんへの恩返しのつもりで，前向きに生きようと考えられるようになった姿を捉えさせ，「命を大切にする」ということについて考えさせる。

10　つながり構想図

道徳教育の重点目標「つながり」	◎　生命の大切さを知って自分の生き方を振り返り，自他の生命を尊重できる子供を育てる。	D（17） D（18） D（19）	低学年　生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。 中学年　生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。 高学年　生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること。

常時活動

【帰りの会】
・いいとこ見つけ

【ありがとうのプレゼント】
・友達への感謝の気持ち

教　　科

【理科】
「メダカのたんじょう」
・メダカの誕生と成長について知り，生命が受け継がれていくことを理解する。

「ヒトのたんじょう」
・ヒトの母体内での成長の様子を知り，生命の神秘さや生命の連続性について理解を深める。

【体育】
「表現」
・運動会でのソーランの練習を通して，精一杯体を動かして練習し，命を輝かせることの素晴らしさに気付く。

道　徳　の　時　間

【道徳の時間】
D（１９）
生命尊重
「命がないと始まらん」
・生きていることの喜びを感じながら，かけがえのない命を，大切に自分自身で守っていこうとする心情を育てる。

【道徳の時間】
D（１９）
生命尊重
「おばあちゃんからもらった命」
・かけがえのない命を大切にし，自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

【道徳の時間】
D（１９）
生きることの尊さ
「この水のために」

特別活動・外国語活動　総合的な学習の時間

【総合的な学習の時間】
「高齢者とふれ合おう」
・地域の高齢者施設における職員（介護福祉士など）の仕事内容について知り，一人一人の命に深く関わっている仕事であることを認識する。

【学校行事】
「野外活動」
・自然や文化などに親しみ，人間関係などの望ましい体験を積む。

【学校行事】
「運動会」
・責任感や連帯感の涵養，体力の向上などに資するような活動を行う。

３学期【特別活動】
「災害時の携行品」
・災害を想定し，それに備える気持ちを持つ。

子供の意識

・ヒトは，母親のお腹の中で，長い年月をかけて栄養をもらって成長をして，生まれてくるんだな。

・自分は生まれた時には，小さかったのに，大きく成長したな。

・高齢者の施設で働いている職員の方々は，毎日高齢者の命を預かって働いているんだな。

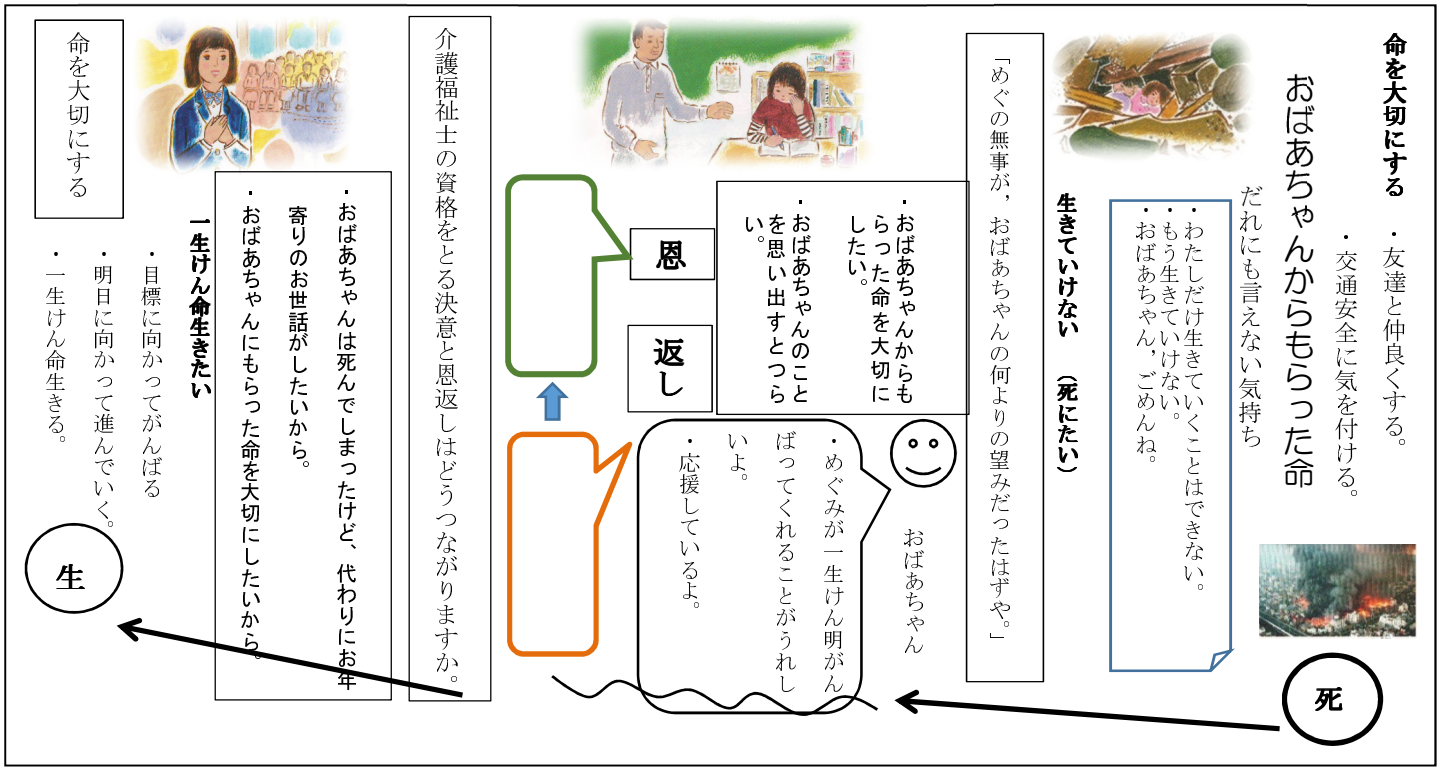
○メダカもヒトも，親から栄養をもらって生まれてきた，大事な命だと分かった。命を大切に，夢に向かって精一杯生きていきたい。

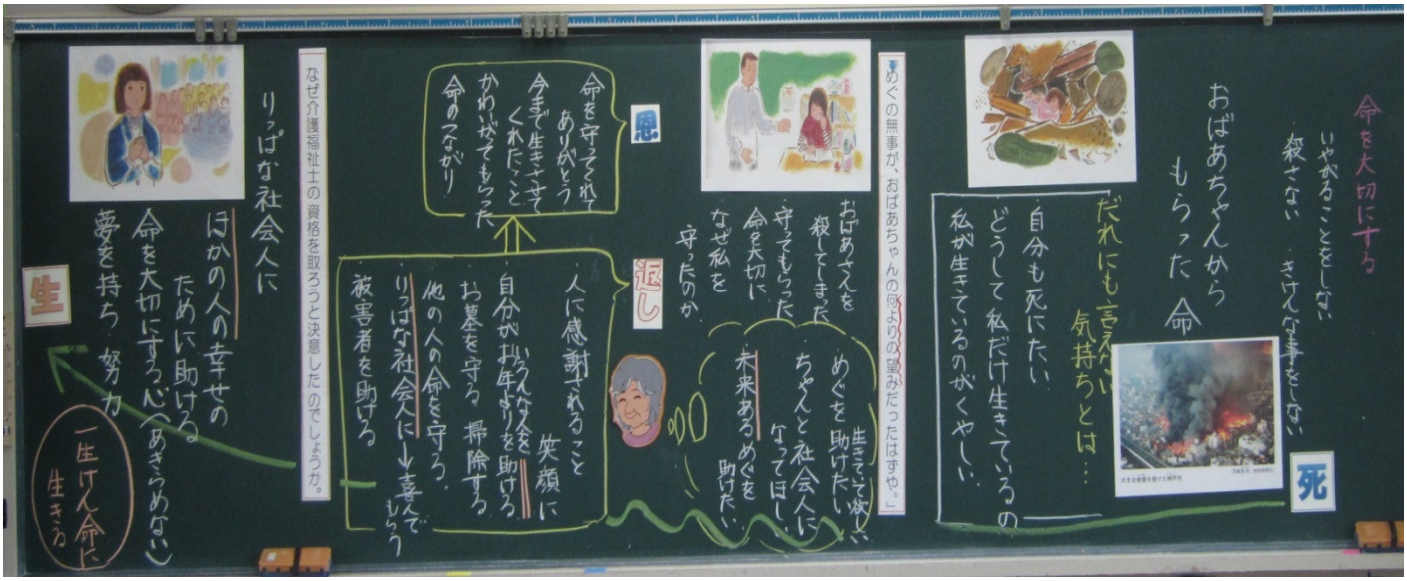
11　授業の展開例

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き （◎中心発問）	指導上の留意点 （☆評価の観点）
導入	1　問題の意識化 今まで様々な命に関する学習をしてきたことを想起させる。 2　学習問題の明確化 本時の学習問題を考える。	○　５年生の学習では，たくさん命に関わる勉強をしてきましたね。 ・理科（メダカ・ヒトのたんじょう） ・総合的な学習の時間（高齢者・野活） ・道徳（命がないと始まらん） ○　命に関するアンケートでは，全員が「自分やほかの人などの命を大切にしている」と答えていましたが、どうすることが「命を大切にする」ということになるのでしょうか。 ・友達と仲良くする。 ・交通安全に気を付ける。	○　今までに学習した内容とその振り返りを紹介することで，本時の学習問題に導いていく。
展開	3　問題の追求 教材を読んで，めぐみさんの気持ちとその変容について考える。	○　震災直後のめぐみさんは，だれにも言えないどんな気持ちをノートに書いたのでしょうか？ ・おばあちゃん，ごめんね。 ・わたしだけ生きていくことはできない。 ・もう生きていけない。 ○　お父さんの言葉を聞いて，めぐみさんの気持ちはどう変わりましたか。 ・おばあちゃんからもらった命を大切にしたい。 ・がんばって学校に通おう。 ・おばあちゃんのことを思い出すと辛い。 ○　天国のおばあちゃんは，この時めぐみさんにどんな言葉をかけるでしょうか。 ・ありがとう。 ・めぐみが一生懸命生きてくれることが，一番うれしいよ。 ◎　介護福祉士の資格をとるという決意と恩返しはどうつながりますか。 【補】めぐみさんにとっての「恩返し」とは，どうすることでしょう。 ・おばあちゃんは死んでしまったけど，代わりにお年寄りのお世話がしたいと思ったから。 ・おばあちゃんにもらった命を大切にしたいと思ったから。	○　教材の１場面を聞いて，めぐみさんの辛い気持ちを確認し共感させる。 ○　教材の２場面を聞いて，めぐみさんの気持ちの変容について多角的に，考えさせる。 ○　教材の３場面を聞いて，めぐみさんの気持ち・決意について，ペアトークを通して，考えを交流させ，全体の場で共有する。 ○　身近な親族に命を助けられ，その恩返しとしてがんばろうとする決意について考えさせ，「命を大切にする」ということについて考えを深められるようにする。

		○　めぐみさんの「命を大切にする」気持ちはどのように変わりましたか。 ・震災直後には，自分の命を大切に考えられなかった。（後ろ向き） ・介護福祉士になろうと決意してからは，一生懸命生きている。　（前向き）	☆　命を大切にすること，一生懸命生きることの素晴らしさについて気付いている。（記述，発言）
終末	4　問題に対する自己の納得 「命を大切にする」ということについて自分なりに納得をする。 5　まとめ 毎日の学校生活の中で，児童の輝いている場面を紹介し，「命を大切にする」ことのまとめをする。	○　「命を大切にする」とは，どういうことをすることだと思いますか。 ・一生懸命生きる。 ・目標に向かってがんばる。 ○　一生懸命がんばったことや，今がんばっていることはどんなことですか。 ・運動会の練習。 ・習い事。 ・友だちとの遊び。	○　ワークシートを活用し，導入で提示した発問を振り返らせ，具体的なイメージをもち，自分なりに納得させる。 ○　児童が一生懸命に活動している写真を提示することで，自分が，がんばって輝いている場面について気付かせ，そのことが命を大切にすることにつながっているということを確認する。 ☆　自分の生活の中での「命の大切さ」について考え，がんばって生きていこうという心情を持つことができている。（記述，発言）

12　板書計画と実際の板書





13　ワークシート

「　おばあちゃんに　もらった命　」

五年　（　　）

★「何もしてあげられなかった　おばあちゃんへの　恩返しのつもりでお年寄りの世話をしよう。」と決心しためぐみさんの言う「恩返し」とは、いったい何のことを言うのでしょうか。

恩

返し

★　これまでの自分を振り返って「命を大切にする生き方」は、どんな時にできていたと思いますか。